

# 行政視察報告書

平成28年12月14日

委員会名		厚生文教常任委員会
参加者	委員長	神 永 四 郎
	副委員長	神 戸 秀 典
	委 員	川 崎 雅 一      安 野 裕 子      佐々木 ナオミ 鈴 木 美 伸      奥 山 孝二郎      大 川      裕 吉 田 福 治
期 間		平成28年11月8日(火)～10日(木)
視察地、 調査項目 及び概要	秋田県 大仙市	<p>1．小中学校における学力向上の取組について</p> <p>大仙市では、本年3月に大仙市の教育大綱を策定し、教育目標を「生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり～共(ともに)創(つくる)考(かんがえる)開(ひらく)～」としている。</p> <p>教育大綱の概要版では、学校教育分野の重点を「『ふるさと大好き』元気に探究する子ども」とし、生きる力としての総合的な学力を育む学校教育の推進、地域活性化に寄与できる子どもの育成を掲げている。</p> <p>平成28年度から各学校の教育活動を「大仙教育メソッド」という形でまとめ、「共創考開」を事業推進のキーワードとして掲げ、このキーワードを関連づけながら各種教育施策を展開している。</p> <p>今年度の重点として、「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指し、          ・基礎となる力、          ・学ぶ力、          ・活かす力の3つの力を育成することで、中学校区単位における特色ある取組の推進を行っている。</p> <p>全国学力・学習状況調査結果においては、県及び国の平均を上回っており、おおむね良好と捉えている。記述式問題無回答率は県及び国より低いことから、難しい問題であっても、既習事項を駆使しながら最後まで粘り強く問題解決をする姿がある。これは、授業の中で一人ひとりの良さを認めることはもとより、家庭での復習を中心とした学習習慣や、基本的な生活習慣が確立されていることなど、家庭の協力を得ておおむね良好であると捉えている。</p> <p>2．小中学校における体力・運動能力向上の取組について</p> <p>全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果において、中学生の持久走が課題となっている。各校では放課後一斉5分間走を行い、持久力の向上に努めているところである。また、体育の授業や業間運動などでも各校独自の取り組みを行い、体力向上を目指している。</p>
	秋田県 由利本荘市	<p>1．文化交流館「カダーレ」について</p> <p>由利本荘市文化交流館「カダーレ」は、コンセプトを「人と夢を育む、科学の船」とし、平成23年12月19日に開館。建設事業費総額約81億円で(株)新居千秋都市建築設計が設計・監理を行った。</p> <p>座席数1,110席の多機能ホールや、楽屋室からなる「文化ホール」、22万冊の蔵書が可能な「図書館」、市民活動室、ギャラリーなどの「交流活動施設」、プラネタリウムを備えた自然科学学習室や研究室のある</p>

「教育学習施設」、レストラン、物産館などの「店舗施設」、南北の道路をつなぎ市民交流や休憩のスペースとして利用できる「わいわいストリート」の6つのゾーンで構成される複合施設である。

大ホールにおいては、カダーレのために開発された可動席によって、通常使用の劇場形式から平土間形式、そしてスーパーボックスの大空間にまで可変する多目的ホールとなっており、日本初となる固定席と同等の音響性能を持つ可変型多機能ホールである。

開館後は、入館者数一日平均1,671人であり、カダーレができたことによって夕方などは中・高校生の待ち合わせの場になっている。以前は、待ち合わせの場の機能を持った施設がなかったため、カダーレができたことによって待ち合わせの場ができたことは評価されている。

また、この施設ができる前はなかなか連携した機能はなかったが、催し物の帰りに図書館やレストラン、物産館に寄るなど、生産活動にも寄与しており、カダーレの完成は、文化芸術学習面で市民活動の活性化にも大きな変化をもたらした。

今後の課題については、維持管理費の増大が挙げられる。現在の修繕費用は破損等による修繕が主であるが、複雑な構造の建物であることから、計画的に修繕を実施することが必要であると考えている。

また、さらなる集客率向上のため、コンテンツの充実を図り、近隣の秋田市、大仙市からの入客を含めた集客を目指している。

#### 1. 「仙台市立病院」について

仙台市立病院は、平成26年11月に移転・開院した。仙台医療圏の中核病院として、高度急性期医療機関としての役割を担うとともに、地域医療支援病院として開業医との連携を図り、教育研修病院として研修医・看護師等の受け入れに力を入れている。

新病院建設に当たっては「政策的医療」の拠点とし、地域の周産期医療を支える「地域周産期母子医療センター」として、NICU（新生児特定集中治療室）とGCU（回復期病床）を新設。総合的、専門的な周産期医療の提供。小児救急医療として、「仙台市夜間休日こども急病診療所」と「救命救急センター」の連携により初期から3次までの総合的な小児救急医療の提供。身体合併症精神科救急医療として、身体疾患と精神疾患を併せ持った救急患者を対象とする総合的な救急医療の提供。救命救急医療として、救命救急センター、ICU（集中治療室）、HCU（高度治療室）を更に充実し、救命救急医療の中心的な役割を担う。災害時医療として、大規模災害時にも支障なく医療活動ができるよう「免震構造」を取り入れ、災害拠点病院として、診療・救護活動を行う機能の確保に取り組んでいる。

医師・看護師等の人材確保策については、診療報酬改定に対応し、人材確保を行うための人員計画を策定し、採用試験・選考を実施している。

医師については、東北大学医学部との人事交流により、また、初期研修医については、首都圏で開催される医学部生向け説明会における広報活動などにより、人材確保を図っている。

看護師確保策については、市内の看護学部を有する大学での説明会に参加するほか、病院における説明会を毎年実施している。また、育児休業による看護師の欠員の補充を行うため、育休代替任期付職員の採用を実施し、平成27年1月から院内保育所を設置し、育児と両立できる職場環境整備に取り組むことで、人材の定着・確保を図っている。

宮城県  
仙台市

